

第16期 中間

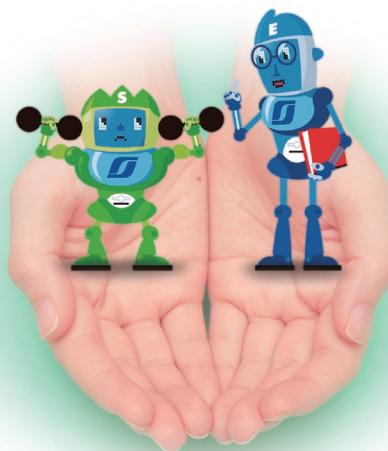
株主通信

2012年12月1日-2013年5月31日

 イーサポートリング株式会社



この手で、みんなの安心、届けます。



証券コード2493

株主の 皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
第16期中間「株主通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

わが国の経済は、金融緩和による円安及び株高の進行により景気回復が期待される中、企業収益に改善の兆しが見られる一方で、雇用情勢に厳しさが残るなど、依然として不透明な状況で推移しております。生鮮青果物流通業界においては、主要クライアント企業のメイン商材であるバナナの輸入量が前年を下回り、小売業の店舗調整後の食料品販売額も前年を下回る水準で推移いたしました。またIT関連投資に関する国内売上高は、概ね前年を上回りました。

このような状況下、当社グループにおきましては、第16期第2四半期連結累計期間の売上高は、システム事業の売上増加はあるものの、農産物販売事業の売上が前回発表予想を下回る見通しとなり、前年同期比微減の21億7百万円となりました。経常利益は、費用の抑制等により、前回発表予想を上回り、前年同期比18%増加の3億19百万円、当期純利益は、税金費用の増加等により前回発表予想を下回り、前年同期比37.5%減の1億57百万円となりました。この結果を踏まえ、第16期通期の業績予想につきましては、見直しを実施し、売上高は前回発表予想比2%減の43億6百万円、経常利益は前回発表予想より1億円増加の5億29百万円、当期純利益は税金費用の増加等により3億30百万円と、前回発表予想比58百万円の減少となる見込みです。

今期は、次の成長に向けての「チャレンジ」の年として位置づけ、イーサポートリンクシステムVer.2の開発に取り組んでおります。また、次の成長に向けての研究開発や、中長期的な成長を見据えた投資の検討も始めました。

なお、2013年(平成25年)6月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。株価は上昇基調にはありますが、引き続き業績進展に向け、皆様のご期待に沿えるよう、邁進してまいります。

ご好評をいただいております株主優待については、今般一部条件の変更をさせていただきましたが、引き続き年2回実施を継続いたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長 堀内 信介

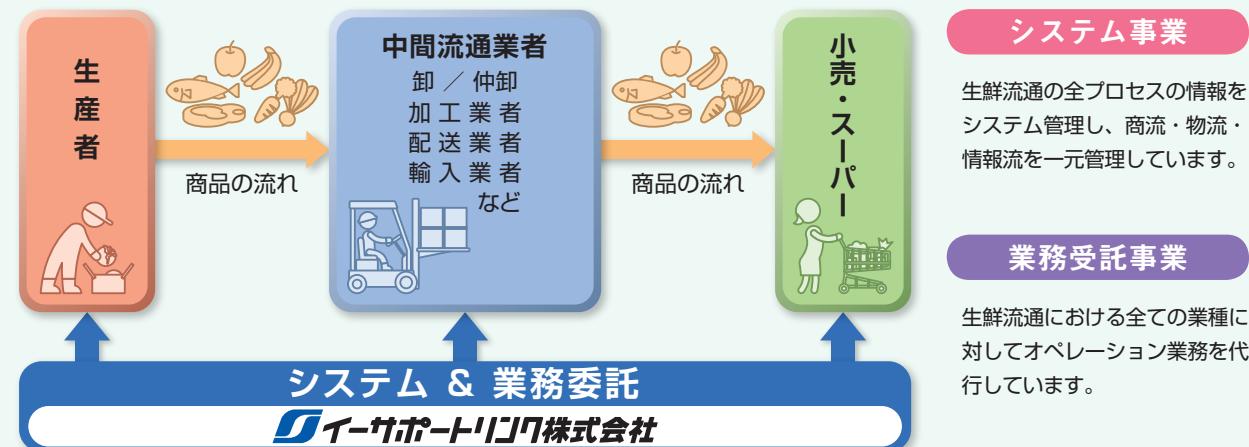
経営理念

全ては生産者と生活者のために！

生鮮流通に携わるすべての人々をシステムと業務受託サービスでサポート！

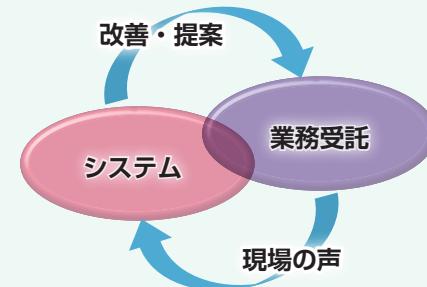
生鮮品が生産者からスーパーに届くまでには、さまざまな取引業者が介在しています。当社は、そのすべての人々にシステムと業務受託サービスを提供することで、流通上の“ムダ”をなくし、コスト削減を実現させました。さらには、全体をトータル管理することで、トレーサビリティ(情報追跡)を確立し、生活者の皆さまに新鮮で安心な商品をお届けすることに貢献しています。

■ ビジネスモデル



※この図解はあくまでイメージ図で、すべての取り引きがこの限りではありません。

システムと業務受託を併せ持つことは、
他社に類をみない当社の最大の強みです！



システム事業

売上高 1,126百万円
(売上高構成比 53.5%)

当社は、システムの構築で生鮮業界の流通工程の中に初めて【計画】という概念を持ち込み、「安定供給」と「ローコスト化」を可能にしました。流通全体をシステム上でコントロールすることによって、流通に携わるすべての人が情報を共有できるため、流通過程の効率化を実現しています。

①イーサポートリンクシステム

当社の基幹システム。主要クライアント企業が採用し、サプライチェーン・マネジメントを実現したことで、事業の基盤を確立しました。このシステムは、流通過程の川上（生産者）から川下（小売・スーパー）までの情報をオンライン上で一元管理できるので、業務負担の軽減やコスト削減、さらには食の安全に大きく貢献するトレーサビリティ（商品の情報追跡）も容易にしています。

②生鮮MDシステム

小売・スーパーの仕入担当者の戦略的な商品調達を支援するシステム。現在、大手スーパーとその取引先（仕入先）に採用され、農産／水産／畜産を中心に導入が進んでいます。今後は、デイリー（豆腐・納豆など）やデリカ（弁当・惣菜）などのその他食品部門への導入拡大を目指しています。

※「生鮮MDシステム」は、経済産業省が推奨する流通BMSに準拠して作られています。

③農場物語

農家の皆さんをサポートする生産履歴システム。農産物の栽培計画段階で使用し、農薬のチェックができるシステムで、農薬の誤使用を事前に防止でき、農薬使用リスクを最小限に抑えることができます。農産物生産者の皆さんへの導入拡大に取り組んでいます。

※「農場物語」は、日本GAP協会の推奨システムです。

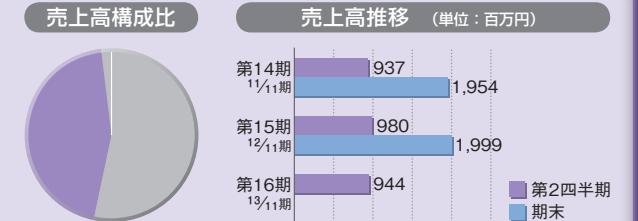


業務受託事業

売上高 944百万円
(売上高構成比 44.8%)

お客様になり代わり、受注から手配、入金の消し込みまでのオペレーションを行います。単なるコールセンターと違い、生鮮流通を知り尽くしたスタッフにより、リアルタイムな商・物流管理を実現しています。

生鮮に携わる、どの業種の人達にも業務受託サービスの提供ができます。業務代行のメニューが明確化されているため、用途に合わせてサービスを受けることができます。これにより、人件費等の【固定費】を<変動費>化できるので、経費削減へ導くことが可能です。

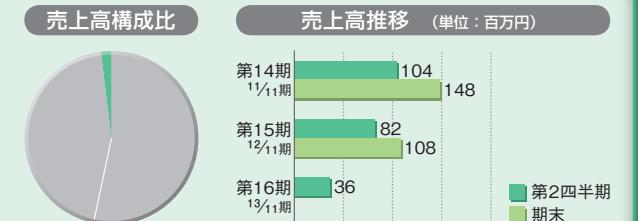


農産物販売事業

売上高 36百万円
(売上高構成比 1.7%)

子会社の㈱農業支援の事業で、りんご事業を中心に展開し、受託販売と仕入販売を行っています。“JGAP団体認証”を取得している「岩木山りんご生産出荷組合」のりんごを中心に扱っています。生産者との連携強化および販路の拡大に努め、収益性の向上に努めています。

※ JGAPとは、NPO法人日本GAP協会が進める「日本版適正農業規範」及びその認証制度のこと。農産物生産の各段階で、生産者が守るべき管理基準とその実践のことで、農産物の安全、環境への配慮、作業者の安全と福祉などの視点から適切な農場管理のあり方についてまとめられたもの。



連結財務諸表

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第16期 (当第2四半期)	第15期 (前第2四半期)	第15期 (前期)
	2013年5月31日 現在	2012年5月31日 現在	2012年11月30日 現在
資産の部			
流動資産	3,036	2,644	2,812
固定資産	1,830	1,209	1,517
有形固定資産	475	258	274
無形固定資産	1,010	578	892
投資その他の資産	345	372	350
繰延資産	3	3	4
資産合計	4,870	3,857	4,334
負債の部			
流動負債	1,362	1,001	1,077
固定負債	886	582	794
負債合計	2,249	1,583	1,871
純資産の部			
株主資本	2,619	2,274	2,462
資本金	2,721	2,721	2,721
資本剰余金	620	620	620
利益剰余金	△722	△1,067	△880
その他の包括利益累計額	1	△1	1
純資産合計	2,621	2,273	2,463
負債純資産合計	4,870	3,857	4,334

■ 財政状態に関する分析

資産の部

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末と比べて5億35百万円増加し、48億70百万円（前連結会計年度末比12.4%増）となりました。内訳としては、流動資産が30億36百万円（同7.9%増）、固定資産が18億30百万円（同20.7%増）、繰延資産が3百万円（同27.7%減）となりました。

流動資産の主な増加要因は、現金及び預金が1億72百万円増加したことによるものです。

固定資産の主な増加要因は、有形固定資産のリース資産が2億2百万円、ソフトウェア仮勘定が1億93百万円増加した一方、ソフトウェアが70百万円減少したことによるものです。

負債の部

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第16期 (当第2四半期累計)	第15期 (前第2四半期累計)	第15期 (前期)
	自2012年12月1日 至2013年5月31日	自2011年12月1日 至2012年5月31日	自2011年12月1日 至2012年11月30日
売上高	2,107	2,109	4,289
売上原価	1,188	1,266	2,622
売上総利益	919	843	1,666
販売費及び一般管理費	599	564	1,175
営業利益	320	278	490
営業外収益	12	4	9
営業外費用	12	12	26
経常利益	319	270	474
特別利益	0	0	0
特別損失	0	0	11
税金等調整前四半期純利益	319	270	463
法人税等	162	18	23
四半期純利益	157	252	439

末と比べて3億77百万円増加し、22億49百万円（同20.2%増）となりました。内訳としては、流動負債が13億62百万円（同26.5%増）、固定負債が8億86百万円（同11.6%増）となりました。

流動負債の主な増加要因は、未払法人税等が1億55百万円、預り金が1億28百万円増加したことによるものです。

固定負債の主な増加要因は、リース債務が1億70百万円増加した一方、社債が40百万円、長期借入金が56百万円減少したことによるものです。

純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べて1億58百万円増加し、26億21百万円（同6.4%増）となりました。この結果、自己資本比率は53.8%となりました。

その主な増加要因は、四半期純利益を1億57百万円計上したことによるものです。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第16期 (当第2四半期累計)	第15期 (前第2四半期累計)	第15期 (前期)
	自2012年12月1日 至2013年5月31日	自2011年12月1日 至2012年5月31日	自2011年12月1日 至2012年11月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	409	322	646
投資活動によるキャッシュ・フロー	△205	△234	△567
財務活動によるキャッシュ・フロー	△30	32	158
現金及び現金同等物の増減額	172	120	237
現金及び現金同等物の期首残高	2,169	1,932	1,932
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,342	2,052	2,169

四半期連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	第16期 (当第2四半期累計)	第15期 (前第2四半期累計)	第15期 (前期)
	自2012年12月1日 至2013年5月31日	自2011年12月1日 至2012年5月31日	自2011年12月1日 至2012年11月30日
少数株主損益調整前四半期純利益	157	252	439
その他有価証券評価差額金	0	1	3
その他の包括利益合計	0	1	3
四半期包括利益	158	253	442
(内訳)			
親会社株主に係る四半期包括利益	158	253	442

■ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期連結会計期間末に比して2億90百万円増加し、23億42百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は4億9百万円（前年同期は3億22百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益を3億19百万円、減価償却費を1億26百万円計上したこと、たな卸資産が36百万円増加したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2億5百万円（前年同期は2億34百万円の支出）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出2億1百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は30百万円（前年同期は32百万円の収入）となりました。これは主に短期借入金の純増額50百万円、社債の償還による支出40百万円等によるものであります。

株主さまアンケート結果報告

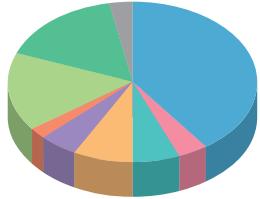
前回、第15期「株主通信」の送付に際して『株主さまアンケート』を同封し、当社の事業や株式に対する意識調査を実施させていただきました。アンケートには、**3,580名**の皆様からご協力いただき、**返信率56%**という高い関心をお寄せくださいましたこと、心より御礼申し上げます。ここにアンケートの結果、ご意見、ご要望につきましてご報告いたします。

■ 年齢



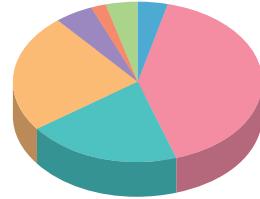
20代以下	6%	50代	20%
30代	19%	60代	23%
40代	21%	70代以上	11%

■ 職業



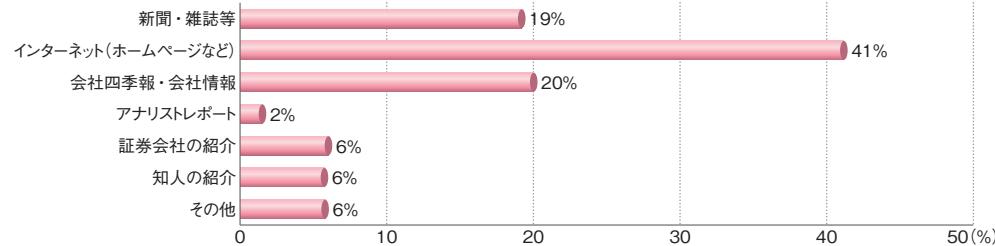
会社員	40%	学生	2%
会社役員	4%	専業主婦	16%
公務員	6%	無職	16%
自営業	8%	その他	3%
パート/アルバイト	5%		

■ 居住地



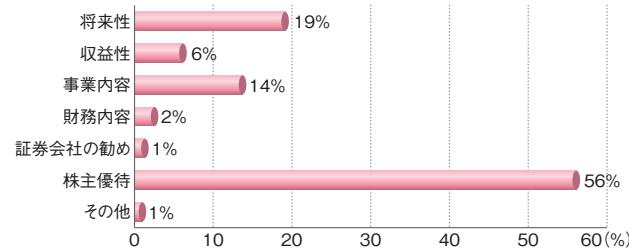
北海道・東北地方	4%	中国地方	5%
関東地方	41%	四国地方	2%
中部地方	20%	九州地方	4%
近畿地方	24%		

■ 当社をどのようにしてお知りになりましたか？

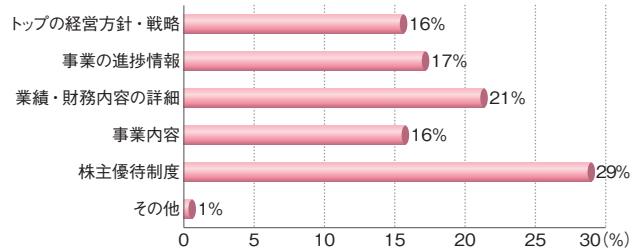


当社を知るきっかけは「インターネット」と回答された方が最も多い結果となりました。

■ あなたが当社の株式を購入された理由は何ですか？ (複数回答)

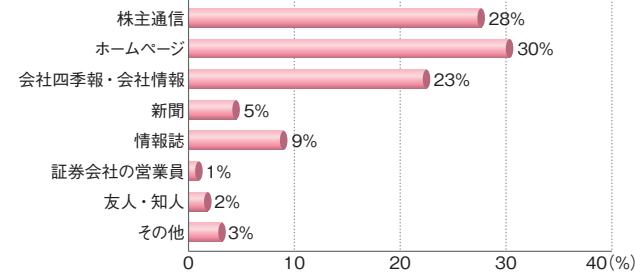


■ 当社について知りたいことは何ですか？ (複数回答)



株式をご購入された理由は「株主優待」と回答された方が最も多く、また、知りたいことも「株主優待制度」が一番多い結果となりました。当社の株主優待にたいへん高い関心を持っていただいていることがうかがえます。

■ 当社に関する情報の入手手段は何ですか？ (複数回答)



当社のIR活動に充実を求めるものとして、「ホームページ上での情報提供」、「株主通信の充実」とのご意見を多く寄せていただきました。情報発信の場として、ホームページや株主通信におけるIR活動の更なる向上に努めてまいります。

■ 当社のホームページをどの程度ご覧になりますか？



当社のホームページをご覧になる回数は、「年に数回」とする方が最も多いようです。

■ フリーコメント

約1,700件のコメントをいただきました。その一部をご紹介します。

- ・ 生鮮に特化している姿勢が良いと思う。
- ・ ニーズに合ったシステムの構築と提供を望む。
- ・ 年2回の優待は嬉しいし、内容も違うのは楽しい。
- ・ 日本の農産物のりんごが株主優待というのは、とても良い。
- ・ 1株保有のため、優待が減って残念。
- ・ 株主通信を読んで、一段と興味を持った。
- ・ 事業内容がグラフ化されており、わかりやすく、見やすかった。

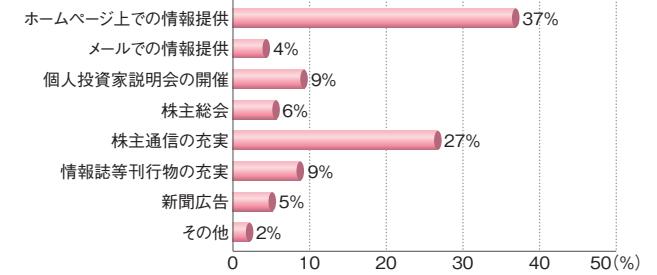
当社の事業に期待を寄せるご意見や激励を多くいただいた反面、当社の事業内容が分かりにくいとの声も寄せられました。皆様のご意見をもとに、更なる事業の理解促進に努めてまいります。



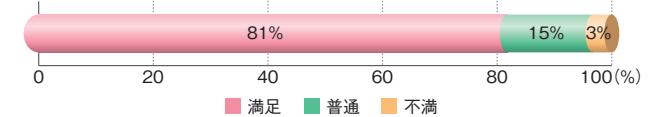
当社では、株主の皆様からの貴重なご意見を今後の経営やIR活動に反映させるべく努め、企業価値の向上に取り組んでまいります。『株主さまアンケート』は、期末のみ実施いたします。次回の「株主通信」に同封いたしますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



■ 当社のIR活動等に充実を求めるものは何ですか？ (複数回答)



■ 株主優待品(りんご生果)はいかがでしたか？



株主優待品(りんご生果)については、8割の方から「満足」との声いただきました。

IR活動報告

当社は、経営の透明性を高めるため、情報開示をはじめ投資家向け説明会の開催など、積極的に推進しています。

2013年1月25日（金）

機関投資家向け
「2012年11月期決算説明会」を開催

2013年5月28日（火）

「合同個人投資家説明会」に参画

宝印刷株式会社主催の『個人投資家のための会社説明会』（東京開催）に参画しました。当日は、多くの個人投資家の皆様にご参加いただき、当社を取り巻く環境と事業概要を中心に説明を行いました。



2013年7月22日（月）

機関投資家向け
「2013年11月期第2四半期決算説明会」を開催

株主優待についてのご案内

5月末現在の株主様（贈呈時期7月）

青森県産100%りんごジュース

- 100株 — 1リットル×3本
- 200株～400株 — 1リットル×6本
- 500株以上 — 1リットル×12本



11月末現在の株主様（贈呈時期1月）

青森県産りんご

- 100株 — 1.8kg
- 200株～400株 — 3kg
- 500株以上 — 5kg



※株式分割および単元株制度の採用により、株式の売買単位は、1株から100株に変更されました。（効力発生日：2013年6月1日）

(2013年5月31日現在)

会社概要

商号 イーサポートリンク株式会社
(英字商号 E-SUPPORTLINK, Ltd.)
本社所在地 東京都豊島区高田二丁目17番22号
設立 1998年10月6日
資本金 2,721百万円
従業員 237名（連結） 230名（個別）

株式の状況

発行可能株式総数 107,000株
発行済株式総数 44,248株
株主総数 6,079名

※2013年6月1日をもって、1株を100株とする株式分割を実施するとともに、単元株制度を採用しました。

役員

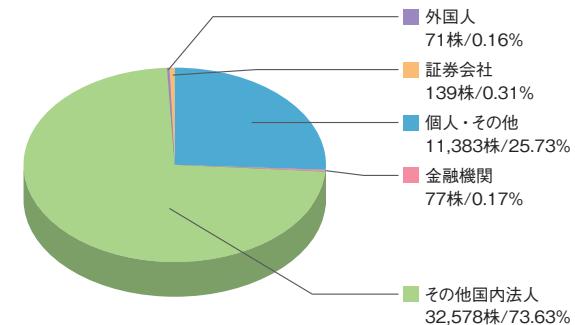
代表取締役社長 堀内 信介
取締役 松丸 正明
取締役 仲村 淳
社外取締役 村井 勝
社外取締役 下戸 章弘
常勤監査役 伊藤 日出夫
監査役 吉田 茂
監査役 升田 和一

大株主一覧表

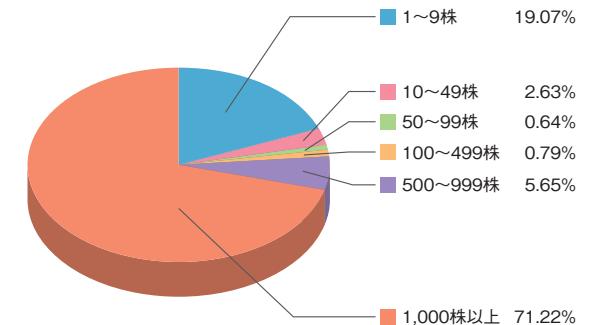
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
フレッシュMDホールディングス株式会社	18,400	41.58
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	4,333	9.79
全日本ライン株式会社	1,956	4.42
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	1,883	4.25
株式会社上組	1,667	3.76
東洋埠頭株式会社	1,111	2.51
オリックス株式会社	1,111	2.51
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	1,050	2.37
ファルコン投資事業組合	978	2.21
イーサポートリンク従業員持株会	822	1.85

株式分布状況

所有者別



所有株式数別



株主メモ

事業年度 毎年12月1日～翌年11月30日
 定時株主総会 毎年2月下旬
 基準日 11月30日
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に 口座をお持ち の場合	証券会社等に口座を お持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券 会社等になり ます。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店(住所変更等)		みずほ証券株式会社 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いいたします*1。 みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店*2

*1：カスタマープラザではお取扱できませんのでご了承ください。

*2：トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。

公告方法 電子公告(当社ホームページ)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子
 公告による公告をすることができない場合
 には、日本経済新聞に掲載して行います。

住所変更手続きについて

当社株式関係書類及び株主優待等ご送付にあたり、ご引越し等により住所が変更となられている場合、お手元に届かないことがございます。住所が変更となる際は、大変お手数ではございますが、なるべく早めに当社株式をお持ちの証券会社にて住所変更手続きをお願いいたします。

ホームページのご案内

当社では、「株主通信」ではお伝えしきれない情報をホームページにて開示しています。株主・投資家の皆様に向けて、決算情報、決算説明資料、PR情報など、タイムリーな情報提供を心がけております。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.e-supportlink.com/>



イーサポートリンク株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号
 TEL：03-5979-0666 FAX：03-5979-0667